

灸道湖



今号の表紙

堀川遊覧船

教育研修部コラム Keep on riding	2
肺がんサロン「つどい」へのご案内	3
肺がんサロン「つどい」世話人さん 募集	3
ロボットスーツHAL®を 使ったリハビリについて	4

呼吸器疾患看護認定看護師として、 患者さんの「息苦しさ」に寄り添います	5
職場紹介（2階病棟）	6
職場紹介（臨床検査科）	7
外来診療表	8

Keep on riding

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

2026年夏。この原稿を書いているのは5月中旬ですが、30℃超えの暑い日。

今年も暑い夏になりそうです。暑い暑いと言っているけど何も変わりませんから、何とか楽しめるようにしたいものです。

かく言う私は、自転車を買ってみました。週に1回程度、自転車で通勤しています。汗はかきます。でも風が心地よい。

教育研修部は何とか皆さんに興味を持ってもらい、スキルアップのお手伝いをしたいというろと模索を続けています。

2009年4月に「医療教育研修室」という名称で、機能的には時間外研修を統括する部門として発足しました。その後、2011年11月には院内の教育研修を統括する部門として「教育研修部」の運営を開始し、現在に至ります。

時代の流れとともに、平日の時間外研修はできるだけ行わないように調整し、「ブートキャンプ」としてまとめて開催しています。またお昼の休憩時間を利用した「ランチタイムセミナー」を昨年から試験的に開始。しかし、これもルール変更による参加人数減少を受けて一旦中止します。

"Insanity is doing the same thing over and over and expecting the different results."

(『狂気』とは同じことを繰り返しているのに、違う結果を期待することだ。) かのアインシュタインの言葉。

時代や現場ニーズの変化、働き方改革、世代交代・・・。

教育研修を取り巻く環境は常に揺れ動いています。

同じことをやり続けていても、期待されるアウトカムは得られません。

教育研修部は変わり続けないといけないのです。

この6月から、在宅ハイフローセラピーの適応が拡大しました。

いずれ気管支拡張症に対する新薬も出てきますし、肥満を伴う閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対してCPAPではなく、内服薬でアプローチ、という選択肢も出てきそうです。肺癌領域でも新薬のアップデートが続いています。このように医療は常に進歩しています。私たちも進化し続ける必要があるのです。

アインシュタインはかくも述べています。 "Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow. The important thing is not to stop questioning."

(過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望をもつ。大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである。)

結果が得られないとき、相手を批判することは容易です。

しかし、その罠に陥ると成長はないでしょう。今やっていることが正しいのか？と自らに問いかけ、自らのやり方が誤っているかもしれない、と自らを疑う姿勢は重要です。

"Life is like riding a bicycle. To keep your balance, you must keep moving."

(人生とは自転車のようなものだ。倒れないようにするには走らなければならない。)

当たり前ですが、自分がペダルを踏まなければ自転車は動きません。

走り続けるには漕ぎ続けなければなりません。行きたい場所へ向かうには、登り坂もあります。時には立ち漕ぎも必要。

教育研修部は変わり続けます。

皆さんも、一緒に "その先へ" 行きましょう。

肺がんサロン「つどい」への ご案内

肺がん患者さんやご家族がつどい、なやみや不安を話しあったり、
がん医療のことや、よりよくすごすための交流の場です。
肺がん以外のがんの方もご希望があればどなたでも参加可能です。

開催は、春（5月）夏（8月）秋（11月）冬（2月）の
第一金曜日（14時～15時）を予定しています。

この日以外にもご希望に応じて開催しますのでお気軽に連絡ください。
いずれも日時を確認させていただき、お待ちしております。
肺がん「サロン」への参加ご希望の方は、次のところへ連絡ください。

2026年4月

松江医療センター 地域医療連携室（石田）

☎ 0852-24-7671

肺がんサロン「つどい」 世話人さん 募集

当院では、春夏秋冬の年間4回（希望による追加開催あり）、肺がんサロン「つどい」を開催しています。時間は、開催月の第一金曜日の14時から15時です。

肺がんサロン「つどい」は、患者さんやご家族がつどい、お互いの経験や思いを話し、よりよくすごすための交流の場です。

当院では、こうしたサロン活動に協力していただける世話人の方を募集しています。
まずは、見学を含めて、お問い合わせ願えませんか？

問い合わせ先

松江医療センター

地域医療連携室（石田）

☎ 0852-24-7671

（平日 8：30～17：15）

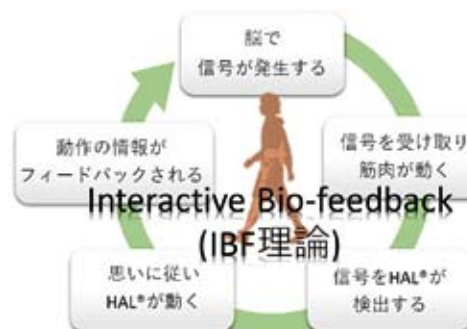


ロボットスーツHAL®を使った リハビリについて

当院では2023年10月より、ロボットスーツHAL®医療用下肢タイプを用いた歩行運動処置を開始しています。

HAL® (Hybrid assistive Limb) 医療用下肢タイプ

装着者が筋肉を動かそうとした時、脳から脊髄～運動ニューロンを介して筋肉に神経信号伝わります。その際微弱な生体電位信号（BES）が皮膚表面に現れます。HAL®は、機器に内蔵された様々なセンサーから得られた情報と、装着者の皮膚表面に貼り付けられた電極を通して得られた情報を用いて装着者の下肢関節動作を支援します。



A) 対象となる疾患

- 脊髄性筋萎縮症（SMA） ○球脊髄性筋萎縮症（SBMA）
- 筋萎縮性側索硬化症（ALS）
- シャルコー・マリー・トゥース病（CMT） ○遠井型ミオパチー ○封入体筋炎
- 先天性ミオパチー ○筋ジストロフィー ○HTLV-1 関連脊髄症（HAM） ○遺伝性痙性対麻痺

B) 適応基準

- 身長：150～175cm、または下肢の長さや腰幅などの身体サイズが合い機体の装着が可能な方
- 体重：40～100kg

対象外となる方

- 体重、身長、下肢の長さなど身体サイズが機体に合わない方、
- 身体に大きな変形があるなどの理由により機体の装着が困難な方
- 皮膚の疾患等により電極の貼り付けができない方
- コミュニケーションが取れない方
- 医師が不適格と判断された方



HALトレーニングまでの流れ



※1 その方の介助量で装着時間が違うため所要時間は変動します。

※2 HALトレーニング日以外の日には通常のリハビリテーションを行います。

※3 外来でのリハビリテーション(HAL除く)を主治医が必要と判断した方のみ

呼吸器疾患看護認定看護師として、 患者さんの「息苦しさ」に寄り添います

4階西病棟 呼吸器疾患看護認定看護師 兼折 孝行

私は2025年12月に呼吸器疾患看護認定看護師の資格を取得しました。呼吸器疾患看護認定看護師は、呼吸に障害のある患者さんの状態を専門的な視点で見極め、息苦しさの緩和や重症化予防、療養生活の支援を行う看護師です。また、看護師への指導や相談対応、多職種との連携を通して、チーム全体でより質の高い看護を提供できるよう支援する役割も担っています。

呼吸は、普段は意識することなく行っているものですが、息苦しさをを感じる患者さんにとっては、大きな不安やつらさにつながります。肺炎や慢性呼吸器疾患、在宅酸素療法が必要な病気など、患者さんが抱える症状や生活上の困りごとは一人ひとり異なります。私は検査データや数値だけでなく、表情、呼吸の速さ、会話の様子、痰の出しやすさなど、日々の小さな変化を大切にしながら、その方に寄り添った看護を提供したいと考えています。

また、特定行為研修修了看護師として、特定行為に係る手順書に基づいて、血液中の酸素や二酸化炭素の状態を評価するための動脈採血などを実施し、患者さんの状態変化を早期に捉え、安全で適切な医療・看護につなげる実践にも取り組んでいます。さらに、4階西病棟での呼吸ケアの実践に加え、呼吸サポートチームが行う院内研修では「呼吸フィジカルアセスメント」をテーマに講義を行い、患者さんの変化に気づくための視点や観察のポイントをスタッフへ伝える教育活動にも携わりました。今後も患者さんにご家族が安心して療養生活を過ごせるよう、スタッフと共に学び合いながら、地域の皆さまから信頼される看護を提供できるように努めてまいります。



職場紹介 (2階病棟)

2階病棟は重症心身障害児と筋ジストロフィーの患者さんが多く入院しています。

小児から成人・老年期の患者さんが自身のライフスタイルや価値観を大切にしながら生活されています。患者さんのプライベート空間であるベッド周りには、趣味や好きなものがたくさん飾られています。



ぬいぐるみやキャラクターグッズ、お気に入りのフィギュア達に囲まれて過ごされている方もおられます。当院では、電子機器の利用をしやすい環境も整っており、好きなアニメやアイドルのDVDを鑑賞したり、テレビで刑事ドラマや時代劇を楽しんだり、パソコンを使いこなし様々な情報を収集しながらそれぞれの時間を過ごされています。また、外出をして買い物や映画鑑賞を楽しむなど社会とのつながりを大切にしながら生活をされています。



学生の患者さんについては隣接する養護学校に登校したり、登校が難しい患者さんは学校の先生が病院に訪問してベッドサイドで授業をしてくれます。

病棟には、人工呼吸器を使用している患者さんも多くおられますが、日々の生活の援助を計画的に行いながら、その人らしい生活を支えています。入浴日は、全員が介助入浴を利用されており、人工呼吸器の患者さんは呼吸補助を行いながら安全に入浴できるよう支援しています。一方でトイレや洗面などについては、患者さんが行える範囲内で自身で行ってもらいます。難しい方には、看護師や療養介護専門員、療育指導室の保育士がお手伝いをしています。

そして、経管栄養の方や点滴の方もおられますが、移動が可能な方は電動車いすに移乗し、食事はデイルームで患者さんや看護師、療養介護専門員、療育指導室の保育士、看護助手などたくさんの人とコミュニケーションを取りながら食べてもらっています。以前ある患者さんから、「自分の身体のこと自分がよくわかっている。食べたいものを元気なうちに食べる」とお話を伺ったことがあります。インスタント焼きそばを見ながら笑顔で話してくださいました。その言葉から、毎日をととても大切にしながら生活されていることを改めて実感しました。

私たちは、すべての患者さんが朝・昼・夜、を感じながら生活していただけるよう、また季節を感じるができるよう環境作りにも努



めています。

医療機器に囲まれていながらも、患者さんの希望する日常を過ごすことができるように患者さんや患者さんのご家族にもご協力していただきながら職員一同支援しています。「松江医療センターに入院して良かった」と患者さんやご家族に思ってもらえる病棟を目指して取り組んでいます。

職場紹介（臨床検査科）

当院臨床検査科は1階にあり、検体検査室、微生物検査室、病理検査室、生理検査室からなります。

臨床検査科の主な業務は、大きく2つに分かれます。患者さんから採取された血液、尿、痰や膿、組織等を検査する検体検査部門（検体検査、輸血検査、微生物検査、病理検査）と患者さんの生体情報を直接検査する生理機能検査部門（心電図、超音波、呼吸機能、脳波、睡眠時無呼吸症候群の検査等）です。

患者さんが的確な診断と適切な治療を受けられるよう迅速で正確な検査結果、必要な情報を臨床（医師）へ提供しています。

また、院内感染対策チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、医療安全対策などの様々なチーム医療に参画し、多職種で協力し、質の高い医療の一助になれるよう努力しております。



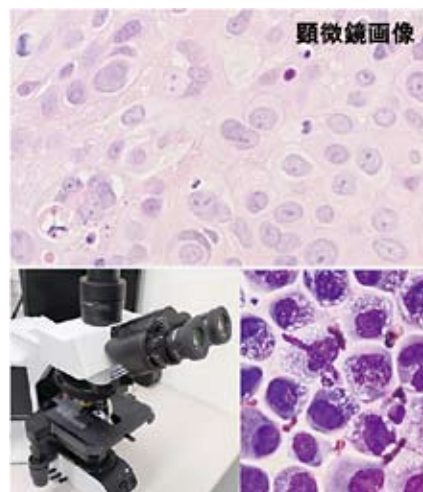
呼吸機能検査装置です。息を吸ったり吐いたりして、肺活量などの肺の機能を調べます。



検体検査室の自動分析装置です。血液中の酵素やホルモン、腫瘍マーカーなどを測定します。



細菌検査室では、患者さんの検体から感染症の原因菌を検出して、治療に有効な薬剤を見つけ出します！



病理検査は、採取された細胞や組織から顕微鏡標本を作製し、病理医が病理診断を行います。



松江医療センター 外来診療表

令和8年4月20日現在

診療科	曜日	月	火	水	木	金	各診療科医師一覧・専門分野等	
呼吸器内科		岩 本 (初診)	小 林 (初診) 門 脇	木 村 (初診) 岩 本 池 田	門 脇 (初診)	池 田 (初診) 木 村 小 林	池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 岩本 信一	呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
呼吸器外科		目 次		目 次		目 次	目次 裕之	呼吸器外科・一般外科
脳神経内科 (予約優先)		渡 辺	古 和 (予約制) 下 山	深 田	足 立 中 野 細 田	(交替制)	古和 久典 足立 芳樹 渡辺 保裕 下山 良二 深田 育代 細田 義人 中野 俊也	脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科・リハビリテーション 脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科
循環器内科						生 馬	生馬 勲	循環器一般
消化器内科		法 正					法正 恵子	消化器内科領域
小児科	小児科発達 専門外来 (予約制)	久保田 (初診・午後)	久保田 (午前のみ)		久保田 (午前のみ) 前 垣 (第2木曜のみ)		久保田智香 前垣 義弘	重症心身障害・小児神経・摂食機能障害・発達障害 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害・発達障害
	予防接種		(予約制)				●小児科発達専門外来(予約制) 月曜日(初診) 13:00~15:00 火・木曜日 9:00~12:00 ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイクアでの遊戯療法も行っています。	

特殊外来・セカンドオピニオン・検診

曜日	月	火	水	木	金	診療時間・診療内容
睡眠時 無呼吸外来				小 林 (予約制)		14:00~15:30 いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
息切れ外来		池 田 (予約制)				13:00~15:00 息切れの診断と治療を行います。
喘息 アレルギー外来					池 田 (予約制)	9:00~12:00 成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
慢性咳嗽外来					池 田 (予約制)	9:00~12:00 3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
禁煙外来				呼吸器内科 担当医(予約制)		9:00~9:30 禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
アスベスト 外来		(予約制)	(予約制)	(予約制)		8:30~11:00 石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
もの忘れ 外来			深 田 (予約制)			9:00~12:00 もの忘れの診断と治療を行います。
ボツリヌス 療法外来	(予約制)	(予約制)				9:00~12:00 痙攣(筋肉のつっぱり)に対して、筋肉の緊張をやわらげる薬剤(ボツリヌス毒素)を注射して痙攣を軽減させる治療を行います。
セカンド オピニオン外来	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	紹介状が必要です。 呼吸器内科・呼吸器外科・脳神経内科・小児科(筋ジス)の専門医(医長)が担当いたします。
肺がん検診	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	9:00~16:30で随時対応いたします。 ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。 料金5,500円

【診療・受付時間(年末年始を除く平日)】

診療時間	8:30~17:15
受付時間	8:30~11:30
自動再来機受付時間	8:00~11:30

【連絡先】

(患者さん・ご家族の方)病院代表
電話 (0852)21-6131
(医療機関の方)地域医療連携室直通
電話 (0852)24-7671 FAX (0852)24-7661



松江医療センターでは一緒に働いてくれる方を募集しています。詳しくは病院ホームページをご覧ください。

ご不明な点がございましたら、下記までご相談ください。

病院代表番号: 0852-21-6131 松江医療センター 管理課 庶務係長